

第11回「淀川水系ダム事業費等監理委員会」の議事概要について

1. 開催日時：平成30年7月30日（月）10：00～12：00
2. 開催場所：メルパルク京都 6階 会議場C【貴船】
（京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町）
3. 委員：岸田 潔（京都大学大学院工学研究科 教授）
角 哲也（京都大学防災研究所水資源環境研究センター 教授）
鄭 小平（立命館大学経済学部 教授）欠席
箱石 憲昭（国立研究開発法人土木研究所 水工研究グループ長）
◎深川良一（立命館大学理工学部 教授）
◎印は委員長（50音順・敬称略）

4. 議事概要：

委員会は委員5名中4名の出席（1名遅刻）により、事務局から委員会規約の改正、大戸川ダム建設事業、川上ダム建設事業、天ヶ瀬ダム再開発事業、丹生ダム建設事業の廃止に伴う整備の実施状況、コスト縮減策等について説明を行い、各委員より意見及び助言を頂いた。

<淀川水系ダム事業費等監理委員会規約の改正について>

- ・規約の改正について、提案通り了承された。

<天ヶ瀬ダム再開発事業について>

- ・再開発事業の効果を再確認し、できる限り早く効果を発揮できるよう事業推進をはかること。
- ・完成後にトンネル内や下流河道の状況を把握するため、モニタリング方法について検討すること。
- ・減勢地部の大断面の掘削施工においては、コスト縮減だけでなく安全にも留意すること。
- ・ゲート室部上屋の見直しについては、維持管理面も考慮し検討すること。

<大戸川ダム建設事業について>

- ・流水型ダムとしての特徴を踏まえ、将来の維持管理に向けて付替道路、現道の活用方法について検討し手戻りがないようにすること。

<川上ダム建設事業について>

- ・本體工事が本格化するため総事業費の管理について留意すること。具体には不確定要因にともなうコスト上昇の抑制と、工事範囲の見直しや新技術等によるコスト低減の両面から事業の適正化を進めること。
- ・コスト縮減を検討する際は、工事の品質確保やダム機能の維持も併せて留意すること。

<丹生ダム建設事業の廃止に伴う整備について>

- ・引き続き事業を進めること。

以上